

中学校 総合的な学習の時間 部会

部会長 川崎町立川崎中学校 白石 俊幸
実践者 香春町立勾金中学校 大鶴 裕司

1 研究主題

自分の生き方を考える総合的な学習の時間
～地域の職場を中心とした職場体験学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請および今日的課題から

「中学校学習指導要領解説 - 総合的な学習の時間編 -」では、「問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」が示されている。また、「体験活動とは、自分の身体を通して実際に経験する活動のことである。生徒は、感覚器官を通して、外界の事物や現象に働きかけ学んでいく。具体的には、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚といった感覚を働かせて、あるいは組み合わせ、外界の事物や現象に働きかけ学んでいく。このように、生徒が身体全体で対象に働きかけ実感をもってかかわっていく活動が体験活動である。」と明記されている。又、キャリア教育の視点から、職業人としての必要な能力、態度、意欲の形成を向上させることが、中学生の進路を選択していくことにおいて体験活動を通して自分の生き方を考えることが意義深いと考える。

(2) 生徒の実態から

本校の2年生は1年次に職業調べを行っており、積極的に調べることができた。しかし、中学校卒業後の進路や将来の夢について具体的に考えている生徒もいれば、ほとんど意識を持っていない生徒もいる。そこで、今後の生き方について考え、実際に職業を体験し、来年の進路決定に向けて考えることが大切になってくる。総合的な時間を活用し、将来の進路実現に向けた取り組みを行うことは非常に有意義であると考えます。

3 主題の意味

(1) 「自分の生き方を考える」とは

体験活動を通して、自分の将来について具体的に考え、進路決定に役立てることである。

(2) 「地域の職場を中心とした職場体験」とは

香春町にはさまざまな事業所がある。生徒が普段生活し、関わっている事業所もある。その事業所で仕事を体験することで、関心をもって意欲的に活動することができる。

4 研究の目標

「自分の生き方を考える」ために総合的な学習の時間において、地域を中心とした職場体験活動との関わりを取り入れた授業の在り方を究明する。

5 研究仮説

総合的な学習の時間において、生活している地域の職場で職業について体験することで、自分の将来を具体的にイメージできるようになり、自分の生き方について考えることができるようになるだろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元（題材等）「職場体験学習」

(2) 単元（題材等）の目標

- 職場体験を通して、基本的マナーや言葉づかいを大切にしようとする態度を育てる。
- 意欲的に活動に参加し、自分の生き方について考えようとする姿勢を育てる。
- 体験した内容を、分かりやすくまとめようとする態度を育てる。

(3) 指導計画

月	活動内容	備考
4月	○オリエンテーション ○事業所希望アンケート	○ 地域の事業所に職場体験の依頼を行う。 ○ 希望の事業所にならないことを伝える。 ○ 服装・頭髪・持ち物・時間など、社会人として大切なことを指導する。
5月	○マナー講座	
6月	○マナー講座	
7月	○自己PR文作成 ○職場体験の約束事項の確認	
8月	○事業所との事前打ち合わせ ○職場体験学習	
9月	○お礼状書き ○まとめ	
		○ 模造紙にまとめる。

7 研究のまとめ

今年度の職場体験学習では、事前の職場訪問をなくし、電話連絡での打ち合わせのみとした。体験当日も職場到着後に学校に連絡をさせず、責任をもってさせるようにした。各事業所を回ったときも、生徒は積極的に生き生きと活動していた。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・職業についての見方や考え方を深めることができた。
- ・地域の事業所にお願いすることで、生徒は意欲的に活動することができた。

(2)課題

- ・早めの取りかかりが必要であった。
- ・今年度は徒歩・自転車・保護者による送迎が主な交通手段であったが、実際に社会に出たときのことを考え、徒歩・自転車・公共の交通手段の利用することも来年度以降検討していきたい。